

会 議 録

会議の名称	第1回小金井市平和施策検討委員会
事務局	企画財政部広報秘書課
開催日時	平成26年4月28日午前9時00分から午前10時20分まで
開催場所	小金井市役所第二庁舎6階601会議室
出席者	委員：根岸座長、林副座長、鴨下委員、永井委員 事務局：稲葉市長、川合企画財政部長、天野広報秘書課長、吉田広聴係長
傍聴の可否	可
傍聴者数	0人
傍聴不可等の理由等	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長挨拶 3 委員紹介 4 事務局紹介 5 座長・副座長の互選について 6 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 意見交換 (2) 第2回の開催日について
発言内容・ 発言者名 (主な発言 要旨等)	<p>発言内容 別紙のとおり</p>
提出資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 小金井市平和施策検討委員会委員名簿 2 小金井市平和施策検討委員会設置要綱

【天野広報秘書課長】 会議に入る前に、配布物の確認をさせていただきます。1点目が本日の次第になっております。2点目、委員名簿。3点目が小金井市平和施策検討委員会設置要綱。ここまでが本日の会議用の資料として配付したのになります。

そのほか、もう1個、別にクリップどめでお配りしているものが各委員の方々への協力依頼、それから承諾書及び口座振替依頼書になります。こちらにつきましては、改めて個別に説明をさせていただきたいと思います。

それから、会議資料の4点目に提案シートというのがあるかと思いますが、そちらについても、後ほど会議に入る直前のほうでまたご説明をさせていただきたいと思います。

それでは、次第に従いまして順次進めさせていただきます。

初めに、市長の稲葉より皆様にご挨拶を申し上げます。なお、市長につきましては、この後、公務のため途中で退席させていただきますので、あらかじめご了承くださいと思います。

では、市長、お願いします。

【稲葉市長】 皆さん、おはようございます。大変お忙しいところ、この平和施策検討委員会にご出席を賜りましてありがとうございます。また、委員を快くお受けをいただきましてありがとうございます。

この平成26年度に、私、施政方針の中で幾つか提案させていただいておるものがあります。1つは、シティプロモーションといって、小金井の魅力を内外に発信しようではないかということをお願いしております。行政はもちろん議会及び市民の方々にも市の魅力を内外に発信していきたいということをお願いしております。

もう一つは、5月1日の市報をごらんになられたかどうかと思うんですけども、チャレンジデーを行おうということで、5月28日の水曜日、この1日、午前0時から午後9時までの間に、11万7,000市民に、15分以上皆さん運動しましょうということ呼びかけております。福岡県の大牟田市が12万2,000人の人口のようです。そこで何%の人が参加したか、参加率、小金井と競争するというものであります。ぜひ、これを市民に徹底したいなと思っております、それはやっぱり今後、健康維持増進のために、みんなで少しずつ運動しようよという呼びかけにしていきたいなと思っております。

それから、3つ目は、小金井平和の日を制定しようということで、あの悲惨な戦争も、だんだん、だんだん戦争経験のある方が少なくなっているという状況から、なかなか次の世代にきちんと伝えきれているのかどうか、風化させてはいけないという思いであります。そういう意味で、平和の日というのを制定して、学校でも地域でも家庭でも、この日は平和について、平和の尊さ、戦争の悲惨さというものを語る人には語っていただけて、次の世代に伝えていきたいということで、その日を、まず、いつにするかということ、それから、平和の施策等についてもご意見いただければなと思っております。そういうことで、戦争体験がどれだけおありになるか、私もよくわかりませんが、そういう趣旨でいろいろご協議をお願いしたいなと思っております。

私自身も昭和19年11月に生まれたものですから、終戦のときは9カ月ということでした。20年8月9日にソ連が参戦すると、侵攻してくるということで、旧満州にいましたので、父親はそこで終わるということで、私と母親だけがはるばる、もう1年かけて日本ま

で引き揚げてきたという、記憶にはないんですけども、そういう経験を積んできた人間として、ぜひ次の世代の人たちに平和の尊さ、戦争の悲惨さというものをきちんと伝えていく義務があるのではないかなと。

そんな思いで、今回、皆様にお願ひし、その日をいつにするか、その日にみんなで平和について考えようと。そして、戦争の悲惨さについて考えようと。世界中でいろんな内乱等々があるわけですけども、そういうことにも着目していく必要があるかなと思っておりまして、こういう提案をさせていただいているので、ぜひお力添え願ひたいなと、そんなふうにしております。よろしくお願ひいたします。

【天野広報秘書課長】 ありがとうございます。

続きまして、次第の3、委員紹介に移らせていただきます。名簿に記載の順番で自己紹介をお願いしたいと思います。

それでは、一番初めに鴨下委員からお願いいたします。

【鴨下委員】 どの程度の時間でやりますか。

【天野広報秘書課長】 えーと……。

【稲葉市長】 鴨下さん、一、二分でやっていただいて。

【鴨下委員】 わかりました。

【稲葉市長】 後ほどご協議する時間は十分あると思います。

【鴨下委員】 はい。現在、88歳です。小金井史談会、長く会長をやっております、2年ほど前にやめたんですが、名誉会長でいてくれということで、名誉会長という名前で今、勤務というか、従事しております。以上です。よろしくお願ひします。

【天野広報秘書課長】 続きまして、永井委員、お願ひいたします。

【永井委員】 永井でございます。私は、今、82歳になりました。戦争体験は、小学校から高等女学校にかけていたしてございまして、中島飛行機の爆撃のときに生き埋めになって生き返ったような体験もございまして、今まで小中学校の生徒にいろいろと戦争の恐ろしさと命の大切さを伝えてまいりました。以上です。

【天野広報秘書課長】 続きまして、林委員、お願ひいたします。

【林委員】 中町3丁目に住んでおります林茂夫でございます。よろしくお願ひ申し上げます。私は、今、皆さんの例に倣って申し上げますと、83になるところでございまして。来月、5月早々に83になりますが、現在、市史の編さん委員で根岸先生と一緒に作業をさせていただいておりますが、戦争体験といえば、私どもは動員の体験が主ですが、この小金井の上空をB29の大編隊が通って、サーチライトで夜照らされるというところを目撃しながら、3月10日の東京大空襲なども、こちらから自分の学校が燃えている、第一小学校が燃えているような感じで体験した、そういう体験がございまして。

平和の尊さ、ありがたさについては、稲葉市長と同じような見識、見解を持っているつもりでございます。よろしくお願ひ申し上げます。

【天野広報秘書課長】 根岸委員、お願ひいたします。

【根岸委員】 はい。根岸と申します。現在63歳ですが、唯一戦後生まれでございます。現在、國學院大學で江戸時代の歴史を教えておりますが、小金井の古文書を30年ぐらい見せていただきまして、市史編さんの委員長を拝命しております。よろしくお願ひいたします。

【天野広報秘書課長】 ありがとうございます。

それでは、続きまして、次第の4、事務局紹介に移らせていただきます。

まず、企画財政部長の川合でございます。

【川合企画財政部長】 川合でございます。どうぞよろしくお願ひします。

【天野広報秘書課長】 広報秘書課広聴係長の吉田でございます。

【吉田広聴係長】 吉田でございます。よろしくお願いいたします。

【天野広報秘書課長】 最後に私、広報秘書課長の天野でございます。よろしくお願いいたします。

議事に入る前に、2点、確認をさせていただきます。1点目は議事録の作成方法についてでございます。小金井市市民参加条例施行規則のほうで、会議録の作成方法というものを3つ定めてございます。

1点目、発言者及び発言内容をそのまま記録する全文記録というものがございます。

2点目といたしまして、発言者の発言内容ごとに要点を記録する要点記録というものがございます。

3点目といたしまして、会議内容の要点のみを記録するという方法がございます。

本会議におきましては、戦争体験のある委員の方々の具体的なお話もいただけるのかなと思っております。そこで、事務局といたしましては、貴重な体験談を正確に記録に残したいと思っておりますので、発言者及び発言内容をそのまま記録する全文記録にしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【天野広報秘書課長】 それでは、そのようにさせていただきます。録音した音に基づきまして議事録を作成させていただきますので、恐れ入りますが、議事録作成の都合上、ご発言の前にはお名前をおっしゃっていただくようご協力をお願いします。

2点目は、傍聴者の方からの意見の取り扱いについてでございます。こちらが4枚目にお配りをした意見・提案シートというものがございますが、市のほうで公開している会議、うち幾つかの会議では、こちらの意見・提案シートというものを使用しまして、傍聴者の意見を取り入れているものがございます。

意見・提案シートの取り扱いにつきましては、市としてまだ統一された規定等はなく、各委員会等の判断に委ねられております。事務局といたしましては、意見をどの程度参考にするかということにつきましては、それぞれ個別に判断が必要となるかもしれませんが、少数で、かつ短期間に検討結果を出さなければならないということがございますので、もし、今日はいらっしゃるんですけども、戦争経験のある市民の方ですとか、こういった平和に関心のある方が傍聴にいらした際の意見というのも参考にしたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【天野広報秘書課長】 では、そのような扱いをさせていただきます。

それでは、次第の5、座長、副座長の互選に移らせていただきます。座長が決まるまでの間、企画財政部長が仮の座長を務めさせていただきます。

【川合企画財政部長】 それでは、座長選出までの間、私が仮の座長ということで務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

直ちに議事に入ります。座長につきましては、小金井市平和施策検討委員会設置要綱の第5条の規定により委員の中から互選するとされてございます。どなたか立候補またはご推薦がありますでしょうか。特にないようであれば……。

【林委員】 林ですが。

【川合企画財政部長】 はい。

【林委員】 根岸先生が適任ではないかと思えます。

【川合企画財政部長】 今、林委員から、根岸委員にというふうなご意見がございました。

が、いかがでしょうか。

【鴨下委員】 はい。適任だと思います。

【川合企画財政部長】 それでは、根岸委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【根岸委員】 はい。

【川合企画財政部長】 それでは、済みません、よろしく願いいたします。

それでは、座長がここで決まりましたので、私の任はこれで解かしていただいて、司会進行につきましても、根岸座長のほうにバトンタッチしたいと思います。どうぞこちらのほうへ移動をお願いいたします。

【根岸座長】 はい。お願いします。それでは、今、選任されました根岸でございます。高いところから失礼いたします。

私1人だけが戦後生まれで、実は戦争体験がございません。ただ、両親や、あるいは祖母からさまざまな戦争体験というものは聞いておりますので、それから、昭和26年生まれですが、ちょうど私のころというのは、小学校の教育というものが平和というものを非常に強く打ち出してきた時期だろうと思っております。そんな中で、そういう思いを一身に教育で受けてきて、今、少し感じが変わりつつあるのではないかと考えているのですが、そういうようなことを、ぜひ次の世代にも継承していくような、そういうふうな会にしたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして、副座長の互選を行いたいと思います。副座長につきましても、座長同様に小金井市平和施策検討委員会設置要綱、第5条の規定によりまして、委員の中から互選するとされておりますが、どなたか立候補またはご推薦ございますでしょうか。

もしなければ、林委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【根岸座長】 ありがとうございます。それでは、林先生、よろしくお願いいたします。

じゃあ、林先生、副座長席のほうに。

【林副座長】 大変恐縮で僭越でございますけれども、座長からご指名がございましたので、お受けさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【根岸座長】 それでは、次第にのっとりまして、6の議題に移りたいと思います。今回、意見交換が重要な課題かと思いますが、特に戦争体験を実際にされていらっしゃる鴨下委員、永井委員、また、先ほど林委員からもお話をいただきましたけれども、戦争体験を通じて、順次ご意見をいただければと存じますが、鴨下委員、まず、いかがでしょうか。

【稲葉市長】 ちょっと、先生、申しわけありません。私、建設環境委員会が今日10時からで、その前の前段の協議会が9時半なものですから、今日はちょっと、お話をお聞きしたいのはやまやまなんですけれども、後で議事録等を読ませていただきたいと思います。申しわけありません。お世話になりますが、どうぞよろしくお願い致します。

【根岸座長】 はい。よろしくお願いいたします。

失礼いたしました。それでは、鴨下委員、よろしくお願いいたします。

【鴨下委員】 戦争体験。

【根岸座長】 はい。

【鴨下委員】 と言われましても、私、ちょうど終戦の詔勅が出るのを、20歳、満19歳で東北の地で聞いたんですよ。そういう経験がありますので、私たちの青春というのは、もう戦争に明け暮れる青春だったわけです。ということがありますので、実は不勉強で平和施策検討委員会設置要綱というもの、特に設置のところ、そこがまだよくわからないので、

この辺のところをまずよく聞かせていただきたいと思います。

【根岸座長】　そうですね。失礼いたしました。それでは、まず事務局のほうから、この施策検討委員会の設置の経緯と、あと、先ほども市長からもお話がありましたけれども、その検討の内容について、ご説明をいただければと思います。

【天野広報秘書課長】　はい。わかりました。では、事務局から簡単にでございますが、ご説明させていただきます。

先ほど市長の挨拶のほうにもあったとおりなんですが、ここで戦後、今年度で69年が経過するのかなと思っておりんですが、そこで戦争の記憶を風化させないために、改めて平和の大切さや命の尊さを語り合い考える機会をつくるために、小金井平和の日というものを制定したいと考えているところでございます。

なかなか戦争経験のある方が、ご高齢になっているということもありまして、なかなかそういったことを語っていただくような場も少なくなっているのかなと思っております。そういったところで、小金井平和の日というのを制定しまして、平和施策の事業展開についても検討していきたいというのが市としての考えでございます。

具体的な検討事項といたしましては、小金井平和の日というのを何月何日にするかというようところでございます。

もう1点については、平和の日に関連しまして、どのような事業を、例えば講演会をやるですとか、そういった、どんな事業をするのが、今後戦争の悲惨さ、それから平和の尊さを後世に伝えていくために必要なかというようなことを、こちらの委員の皆様にご覧いただきたく、そういう趣旨で設置した委員会でございます。

ですから、まず最初の第1回につきましては、特段こちらから資料を用意することなく、せっかく戦争経験のおありの方にお集まりいただいておりますので、今日はそういった体験談を含めまして、いろいろなご意見をいただきたくと考えてございます。

【根岸座長】　よろしいでしょうか。今のご説明について、何かご質問なり、ご意見なりございますか。はい。お願いいたします。

【林副座長】　ちょっとお尋ねしたいんですが、平和の日というのは、小金井市のレベルで、市民の日として決めたいと、こういう理解でいいですか。

【天野広報秘書課長】　はい。そういった形で決めたいと思っております。

【林副座長】　決め方の手続としては、この検討委員会が、いずれ何らかの形で市長に答申をするということになりますか。今、市長から諮問があったと理解していいんですか。

【天野広報秘書課長】　今回、この委員会につきましては、市長の諮問機関ということではなく、具体的な意見を出していただくと、それについてご協力いただくというような形で設置しています。ですから、諮問に対する答申というような形ではなく、ここを出していただいた意見を参考に、委員の皆様も含め、事務局ともども検討しまして、その結果に基づいて市としてパブリックコメントをかけさせていただきます。そこで市民のご意見もいただきながら、それも参考に、またこちらに持ち帰って委員会で検討して、それに基づいて、その日を決定すると、そのような流れを考えてございます。

【林副座長】　わかりました。そのめどというのは、いつごろまでを予想しているんですか。

【天野広報秘書課長】　6月までにおよその案を検討していただいて、そこからパブリックコメントを行って、7月には決定したいというようなスケジュールで考えております。

【林副座長】　何月？

【天野広報秘書課長】　7月です。目標としては9月の議会に条例案を提出したいと考え

ておりますので。

【林副座長】 そのこのところを聞いたかったんですが、市長が提案して、議会の議決を経て、それで平和の日という制定の仕方をしたいと、こういうわけですね。

【天野広報秘書課長】 はい。

【林副座長】 忙しいですね。

【根岸座長】 そうですね。それまでの、大体何回ぐらいとか、その予定もとりあえず、今、続けて教えていただけますか。

【天野広報秘書課長】 はい。今日も含めまして、6月までに3回行って、大体の案をつくりたいと考えております。今日につきましては、先ほど申し上げたとおり皆様のご意見をもとに協議をさせていただきまして、第2回についても、引き続きご意見あれば、ご意見をもとに協議したいと思っておりますけれども、第2回までには、事務局のほうでも何らかの平和の日の候補に上げられるような資料は用意したいと考えております。

第3回までにパブリックコメントにかける案ということで、平和の日をいつにするのかということと、可能であれば、間に合えば平和の日にどのようなことをすればいいかといったことも検討したいと思っております。

まず、第一目標としては平和の日をいつにするかというのがありますので、平和の日に何をするかというところが、そこまでに決まらないようであれば、第4回をパブリックコメントが終わった後、また7月にやりたいと思っておりますので、そのときに引き続き協議をしていただきたいと思いますと考えております。

【根岸座長】 はい。ほかに何かご質問、ご意見よろしいでしょうか。どうぞ。

【林副座長】 資料のことでお尋ねしようと思いましたが、説明がありましたから。あと、それで、こういう日を制定している自治体というのはあるんですか。

【天野広報秘書課長】 都内では、武蔵野市さんと、西東京市さんの2市。

【林副座長】 え。

【天野広報秘書課長】 西東京市。西東京市さんのほうは、保谷市と田無市で合併しているわけなんですけれども、合併する前の田無市さんのほうで制定されていたと聞いております。

【林副座長】 今、田無でやったのが合併後、継承されているわけね。

【天野広報秘書課長】 はい。今、西東京市の平和の日ということで。

【林副座長】 それで、各年度で、その月日が来るとそこで一定のことをやっているわけですか。

【天野広報秘書課長】 はい。今、具体的なものについては資料がありませんが。

【林副座長】 まあ、そういう資料はこの次にいただけるわけですね。

【天野広報秘書課長】 ええ。そういったことも参考資料としてまた配付させていただきたいと思っております。

【林副座長】 全国的にもかなりあるんですか。

【天野広報秘書課長】 今のところ、事務局で調べたのは都内の例ということで、ほかは調べていないんですけれども。もし参考になるようなものがあれば調べておきたいと思っております。

【根岸座長】 そうですね。はい。

【永井委員】 けさは朝早くから、大分、戦争についてのいろいろなことが報道されましたね。何かまた復活してくるような感じでした。

【根岸座長】 はい。どうぞ。

【鴨下委員】 鴨下です。西東京市さんのほうは、私、前にも見学に行っているんですが、あそこは中島飛行機の武蔵野製作所がありましたので、徹底的にやられたんですよ。ですから、慰霊碑がお寺にちゃんとできていますしね。ああいう決定的な日が小金井にはないんじゃないかと思ったんですよ。ですから、その辺、小金井市用の日を決めるとすれば、小金井を知っている人がそうかな？ というようなことになるんじゃないかと思いますので、ちょっと身が引き締まるわけでなんですよ。西東京市は異議なしでこの日にしようと、それからこういうことをしようというふうな市だと思います。だから、参考にはなると思いません。

【永井委員】 あそこ武蔵野ですね。私は武蔵野市の学校に行っていましたから、もう爆撃がすごかったですから。田無と武蔵野はすごいですよ。

【根岸座長】 今の続きで、小金井では、爆撃は何度かはあったわけですね。

【天野広報秘書課長】 はい。次回、また詳しい資料は用意したいと思っておりますが、私の把握している限りでは、2回ほど記録は残っているんですけども、ただ、小金井を目標に定めてというようなものではなく、やっぱり近隣の、今お話のあった武蔵野市ですとか田無市ですとか、そういったところに行く途中でというような例しか残っていないのかなというふうに、今のところは思っています。

【林副座長】 流れ弾です。

【鴨下委員】 鴨下です。永井さんは、最後のころ、8月15日前後のことはよく知っているわけでしょう。

【永井委員】 そうですね。

【鴨下委員】 私は、技術学徒動員ということで、中島飛行機の三鷹研究所へずっと行っていたんですよ。それで機体設計のほうをやっていたんですが、そのせいで機体はばらばらに疎開したんです。東北の黒沢尻というところ、現在の北上市。

【永井委員】 ああ、あそこに行っていっちゃった。

【鴨下委員】 あそこへわっと引っ越して、それにくっついて行っちゃったの。ぜひ来てくれというんでね。ぜひ来てくれなんて言うとか鼻が高いみたいですが、もう、設計あたりの課員がどんだんどん召集されちゃいまして、技術学徒はもうほんとうに頼りになるような状況だったんです。しかし、それでも、みんな学友は都内ですから、空襲を受けまして、機体関係が50人近く全部。それから、発動機関係も50人近く、全部あそこに動員されていたんですが、その中で行ったのは5名ですよ。黒沢尻に行ったのはね。現在、北上市になっていますね。ですから、最後のころの、ものすごい、空爆が小金井にあったとしても知らないんですよ。5月ごろから行っちゃいましたから。で、お聞きするんですが、小金井はどうだったの。爆弾は落ちてないの。

【永井委員】 落ちました。たくさん、落ちました。

【鴨下委員】 落ちました？

【永井委員】 私の家の裏に落ちましたり、あと、小金井公園の中にもたくさん落ちましたから。

【林副座長】 あっちのほうはちょうど飛行ルートに当たっていましたね。

【永井委員】 そうです。

【林副座長】 横河電機やら、あちらのほうに行くのには。

【永井委員】 今のちょうど小金井公園の真上あたりが、B29の通路でしたから。

【鴨下委員】 1回、早くに落ちましたよね。皇太子様があそこにいらっしゃるから。

【永井委員】 そうです。

【根岸座長】 そうした体験などで、特に重要だと思われるような、そうしたお話ってございますか。

【永井委員】 私は爆撃がありましたときに、道端の防空ごうに飛び込みまして、そうしたら、そこに、わっと大勢学生が入ってきたんですけれども、爆風で防空ごうが崩れてしまったんですね。それで生き埋めになりましたときに、覆いかぶさってくれた学生さんがいたんです。その人が、今で言えば武蔵境の獣医学校の大学生さんだったんですね。その人がかぶさってくれたために、私たち3人が、土もそんなにかぶらなくて、息もできましたり、生き埋め、もうかつかつで生き延びられたんですね。

ですから、それ、ほんとうに、最後の最後に受けた恩というものは、いまだに忘れられなくて、よく私も記事に出したりするんですけれども、そういう生き埋めの体験もあります。

それから、防空ごうはすぐ先で、そこまで走っていけば避難できるのに、足が間に合わなくて、下水の中にもぐったら、そこに直撃、防空ごうが直撃で埋まってしまったという、ですから、運がよかったというのか、と思うんですけれども、そんな体験をして生き延びしてきました。

【鴨下委員】 ちょっと質問よろしいですか。それはいつごろのことでしたか。それは小金井だったんですか。

【永井委員】 はい。そうです。昭和20年の東京大空襲から、その後です。それはひどかったです。

【鴨下委員】 3月ですか、5月ですかね。どっちでしょう。

【永井委員】 4月25日もひどかったですし、それから頻繁にありましたので。

【鴨下委員】 じゃあ、あれですよ。小金井の市民の方々も相当怖い思いをしているわけですよ。

【永井委員】 そうです。私、高等小学校は今で言うと武蔵高校ってありますよね、あそこが武蔵高等女学校となっていて、あそこに入ったときに、爆撃が一番すごかったんです。それで、武蔵野女子学院に爆弾が落ちちゃって、あそこは大分死者が出ましたから、ですからこの近辺も大変なことだったんですよ。

【林副座長】 1人1人の体験となると……、ここは意見交換となっていますが、体験談でもいいわけですよ。

【根岸座長】 はい。

【林副座長】 私の父は山口県の萩というところの出身なんですけど、明治30年の生まれで、日本海大海戦のときに菊ヶ浜という萩の日本海に面した浜辺に、住民が総出で半日、殷々たる砲声が届いたというんですね。見えないけれども。朝鮮半島と2時間ぐらいで行ったり来たりできる距離ですから、その中、間で大海戦が行われたと。それで、総出でどうなっているのか、どうなっているのかと、当時今のような情報の伝達システムなんてありませんから、何もわからずに、ただ、半日砲声が殷々と響いておると、一体どうなっているんだろうと、立っているうちに胃が痛くなってきて立っていられなくなったというんですね。浜辺にしゃがみ込んでしまったと。

その話を聞いていたので、ちょうど3月10日の日、父は東京医科大学というところに当時いたんですけれども、新宿にあるものですから、ちょうどそれが、何人かの職員が交代で奉安殿を守るということで、当直だった日に当たっていたんですね。

3月10日の夜中に母親から起こされて、大変だと、第一小学校が燃えているんじゃないかと。第一小学校のすぐ南側に住んでいたんです。今の小金井市の。そのころは旧校舎ですから、南北に、東の端に大きな通りがあって2階建ての校舎が建っていた。それが燃えてい

るんじゃというふうに言われて出てみたら、確かにガラス戸が真っ赤なんですね。それで、慌てて寝巻のまま校舎の、学校のところに行ってみたら、それは東京の大空襲で燃えている、炎の明かりが反映していたんです。すごい明かりだなと。

そのときに親父はどうなっているんだろうなと、瞬間そう思ったんですね。しばらく学校の窓ガラスを見たり、それから東の空のほうが真っ赤になっているのを見たりしているうちに、ふっと、おやじが菊ヶ浜で胃が痛くなって立っていられなくなったっていうのを思い出した。私も胃が痛くなって立っていられなくなってしゃがみ込んでしまったんですね。それで、これが戦争の体験というのかなと子供心にそう思いました。

それが、どちらかという、一番最初の印象として私は強く残っていると。実際に学校は燃えていなかったんですけども、そういうふうには反映して見えただけですね。そのころは、高射砲弾の破片、皆さん方は見たことはないだろうけれども、ぎざぎざの、あんなものに直撃を受けたら、それこそほんとうにぐうもすうもないんじゃないかというようなのがたくさん落ちていましたよ、この周辺に。それで、電探妨害、電波探知機を妨害するというので、爆撃機があれをまくんですね、ジュラルミンのような、塊みたいなものを。それがふわふわ、ふわふわ飛んでくるんですね。それを拾うのが手柄顔みたいに、私ども子供のころ集めて歩きましたね。たくさんそれが落ちていた。

それで、3月10日前後になりますと、しょっちゅうB29が夜飛んでいると。ラジオの放送で空襲がありますと言っているころにはもう上に来ているんですね。で、サーチライトで照らすと、異様な形で、すぐその上を飛んでいるんですよ、編隊で。ああ、これがあのB29という飛行機なのかと、大きなものだななんて思って、子供ですから。大した感傷もせずに見ていたんですが。そのうちに3月10日から終戦までの間だったと思うんですが、いつの日かというのはちょっと記憶にないんですけども、私の自分の家で、艦載機の空襲があるもので庭に立って見ていたら、羽の折れた飛行機っていうのは、後でポートシコルスキーという飛行機だということがわかったんです。羽が折れている飛行機がたくさん急降下してきたんですね、私が見ていたら。そうしたら、顔が見えるんですよ、何となく顔らしいようなものが、操縦者の。何か、真っすぐおりてくるんで、あれ？ 僕のことをやっているのかなと思って、慌てて退避したら、ひゅるひゅると、銃弾の走る音ってひゅるひゅると聞こえるんですね。2発、ひゅるひゅると。隣の家の前の方南側にある物置にばりばりって弾が入ったんです。その後、見てみると、全く自分の立っているところに、ほんとうにあれ、立っていたら命中したんだろうなと。すごく正確だなと思いましたね。そのとき以来、艦載機というのはほんとうに気をつけないと危ないと思いました。ものすごい精度の高い機械ですね。

で、その弾を、あるんじゃないかといって、隣のおばちゃんにいろいろ話をして、弾を拾おうっていうんで見つけたんですが、どこにいったか、2発なんですけど、出てこないんですよ。どういうことになったのか。あればほんとうによかったなと思っている。

そのほかに戦争体験は、強制疎開の建物を壊すのを一生懸命やって、壊し方が足りないといって先生から金づちで頭を殴られたりとか、というのを体験しましたが、戦争の悲惨さというのはそういうところにあるのかなと。

でも、その当時は軍国少年でしたから、ちょうど終戦の詔勅をやったのはお昼の正午ごろだったと記憶しているんですが、真夏の暑いときに道路を歩いていたら、民家で詔勅があるという、道路に正座して座って聞きましたね。父親が大東亜戦争が始まった12月8日の夜、灯火管制があったわけじゃないんですけども、電気を薄暗くして、みんなで食卓を囲んでやっているときに、こんな戦争勝てるわけがないと言ったんですよ。ぼそっと。大人ですか

らね。そういう見識があったのかどうか。私は軍国少年だから、いきり立って立ち上がって、お父さんそんなの非国民だと。

そんなことを言うんだったら憲兵隊に言いつけてやるみたいなことを私が言ったら、悲しそうな顔をして、おやじが私の顔を見ましたね。そういうことが時々思い出されるんですよ。その情景というのは、時々夢にも出てくる。何か戦争の体験というのは、非常に心象的に、子供のときには強く心に焼きつくようなものであると。戦争の悲惨さというのは、直接軍歴があるわけじゃないからよくわかりませんが、こちらにいて、いろんなことを見聞きをした中で、やっぱり平和がありがたいと、平和であるべきだというふうにつくづく、今、思います。すみません。随分お話ししました。

【根岸座長】 いえいえ。貴重なお話をいただきまして、ありがとうございます。

ここでは、とりあえず意見交換ということですので、ほかにそのような体験ですとか、あるいは思いとかというようなことについて、いかがでしょうか。

【鴨下委員】 鴨下です。今、永井さんや林さんのお話を聞いて、小金井自体が爆撃や銃撃の対象になったということはあまりなかったように思います。というのは、周りに軍需施設がありましたし、それから艦載機もかなりやられてから来始めたわけですが、府中に陸軍の燃料廠というのがあったんです。そこを大体目がけて来ていたようです。

それから、小金井の南のほうにある野川というのが飛行機にとって1つのさかのぼる目標だったらしいですね。その先のところに中島飛行機の三鷹研究所という建物がありましたが、そこを目がけてきたのが爆弾を落としまして、そのうちの2つが小金井市内のちょうど今の野川公園の野鳥観察所のところに落ちまして、池になっちゃったんです。これは小金井に帰ってきました、いや、こんなところに落っこってるわと。長い間放っておく間に池になりまして、それで公園になって、今残っていますよね、池で。それを知っているのはほんとに小金井の南のほうに住んでいたガキたちだけなんです。そのときの爆撃の様子を米軍が写真に撮ったのを、基督教大の高校の先生をやっている人がいろいろ爆撃を調べていまして、私とも何回か会ったんですが、ダーッとこのあたりに落ちて、2発が野川公園の入口に穴を2つ作り遺跡になっちゃっています。

それから、機銃掃射のボートシコルスキーなんかが来まして、それこそ風防から外を見まして、にやっと笑ったりしていた。火の見やぐらにのっていたうちの兄貴なんかが真っ白い顔して気味悪かったと言っているんです。みんなそれは府中の燃料廠を銃撃するために通り道になっちゃったんですね。

それからもう一つは、3月10日の空襲は、林さんがおっしゃったように、ものすごく小金井でも心配したり、これは大変なものだということだったんですが、そのころ、私の兄が10歳違いなんですが、警防団ですよ、あのころの名前。警防団に入って、今の自主消防団です。動員がかりまして、トラックで都内へ行ったらいいんですよ。何をやったかという、真っ黒に焦げた遺体の片づけなんです。トラックへ放り投げるとカサッという音がして、それをどんどん積み上げて埋めたらいいですね。

どこへどう行ったんだかほんとに覚えてないけど、死体の匂いが鼻について嫌だったということを非常によく語ってましたから、兄と同年代の人が生きていれば、それは非常に小金井にとっての戦争の悲惨さというのを間近に見た人が大勢いた時代だと思います。今、兄はもう98歳ですから、ほとんど同僚はいないと思いますが、それを聞きまして、私も人間の体がそんな焼けた炭みたいになっちゃう。放り投げるとカサカサという音がしたんだという話はちょっと忘れられなかったですね。これが3月で、私、5月から北上市へ行っちゃったんですが、3月ごろは相当やられましたね。

【根岸座長】 ありがとうございます。小金井に直接的な大きな被害がある、ないにかかわらず、やはり小金井の地域が戦争に大きく巻き込まれて、地域の人たちが大変な思いをされたというのは、今の話からも伝わるんじゃないかと思うんですけども、反対にそういう特定の日がないからこそ、改めてそのような平和を思い返す日というようなものを考えるのは風化させないためには重要だという、そんな理解もできるのではないかと思うんですけども、ただ、たしか都の記録だと空襲の記録は2回ぐらいしかないんですね、小金井が空襲されたという記録は。それはあくまでも公文書であって、公文書とは違う実態というものをもう少し掘り下げてみることも考える上で重要かもしれないですね。

【林副座長】 座長、いいですか。

【根岸座長】 はい。

【林副座長】 林ですけども、平和の日に特化して考えますと、今の小金井市の住民構造というのは、11万7,000人、日本全国から来て都市が構成されていると。戦争当時の市民の、いわゆるネーティブといわれる土地の方々、土着の方々というのは、今、おそらく1%もないぐらいの人口比率かなと思うんですよ。そうすると、小金井に特化した戦争被災体験みたいなものから割り出して平和の日を決めるということがいいのか、全人口的な分布を考えて、ナショナルレベルで考えたほうがいいのか、その辺はどういうふうにしたらいいのか、事務局にお尋ねするのは変な話で、こちらで決めることなのかもしれませんけれども、その辺のところは何か考えがありますか。

【天野広報秘書課長】 まず、事務局として最初に考えていたのは、武蔵野市さんですとか旧田無市さん、西東京市さんのように、小金井で何か大きなことが起こった日、その日をきっかけに平和について考えようということを考えていたところはございます。ただ、今、林委員がおっしゃるように、そういった考え方もあるのかなとは思いますが、そうしたときにどういう理由で、どの日にそれを当てるべきかというところ、そこを詰めていかなければいけないのかなとは思っておりますけれども。

【林副座長】 小金井に典型的な、例えば爆撃例があったとか、戦争の被災体験があったとかいうならそれを中心にして考えることもできると思うんですが、特にそういうのは今までのお話の中でもある状況じゃないですので、そうすると、住民の分布状況なんかも考えて決めたほうがいいのかどうなのかと思うところもあるわけです。ただ、今の状況の中で、何となく表現することがはばかれるというか、世の中が何となく右傾化しているような感じがとれますよね。そういう状況の中で、置かれている稲葉市長の立場からして、平和の日を制定しようと発信することは非常に勇気のある立派なことだなど、さっき市長のお話を聞いていてそう思いました。我々もそういう市長のお話を尊いものとして見ていかなきゃいけないなと思っているということを一言言っておきたいと思います。

【根岸座長】 ありがとうございます。今すごく重要な問題を2つほどご指摘していただいたと思うんですけども、一応平和の日、施策を検討する委員会ということですので、やはり平和の日というものをどこかに置いて、戦争体験、あるいは平和への思いを風化させないということは考えなければいけないんですが、全体的な、新しく小金井に戦後來た方も取り込みながら平和の日を考えるのかということも一方ありますし、小金井に集まってきた人たちですので、小金井の歴史的、文化的、それを通じた平和への思いというものに結びつけながら考えていくのかという2つの方向があるように思います。今すぐに決められることではなく、これから検討を加えながら、あるいは今後新たな資料を提示していただきながら決めていくことになるかと思っておりますけれども、ほかに何か思いつくようなことはございますか。あるいは体験としてここで話ししておくようなことというのは、永井委員、何

かございますか。

【永井委員】 私はひどい戦争体験をしておりますので、平和の尊さを後世まで伝え続けていきたいということで、私どもは先がありませんので、お伝えすることは限られていると思うんですけども、私の夫が特攻隊の生き残りだったものですから、そんな関係で、生き残ってしまったことを相当悔やんで、世界各国慰霊して回って死んだ人なんですね。ですから、今、世界情勢もいろいろと不安なところもありますので、やっぱり平和に対する気持ちというものをもっと持ったほうがいいんじゃないかなと思います。

【根岸座長】 今まで学校などでいろんな体験をお話いただいたということでしたけれども、特にどういうことを強調されたりしておられましたか。

【永井委員】 やっぱりその当時の助け合いの心とか、それから、何しろ食べ物もない時代でしたから、節約節約ということで生きてまいりましたけれども、今の幸せをかみしめるようなことがどのようにしてできるか、給食をみんな召し上がっていますから、その給食に対して大変わがままを言っている子供たちもいるという先生のお言葉がありましたので、当時のお話をいたしましたら、とたんに次の日から給食を残す子がいなくなって、ありがとうございましたという校長先生からの言葉をいただいたときはびっくりしてしまったんですね。ですから、何しろ白いご飯なんか食べられない時代を生きてきましたので、そのお話をしましたら、残す者がいなくなったということも伺いましたし、友達同士のいたわり合いもとても高まったということも聞きましたので、小学校の3年から6年ぐらいまでのお子さんと中学生と話を続けてまいりましたんですけど、その当時は大変皆さんに喜ばれて、感想文をたくさんいただいたのが私の唯一の宝物です。

【根岸座長】 ありがとうございます。

【林副座長】 座長、林ですが、確かに戦争の悲惨さを伝えるのが戦時中だけの課題じゃないように今、永井さんのお話を聞いていますね。戦後の悲惨な食糧難の時代など、あれはほんとに平和を希求する大きなよすがになると思うんです。私どもも食べるということに対して大変な思いを体験しています。私どもは食べることだけですが、親は大変だったんじゃないかなと思いますね。そういう面も戦争の後遺症というんでしょうか、平和がほんとうに大事だなというのは、今話を聞いていて、そういうところにつながるように思いました。

【根岸座長】 ありがとうございます。平和の大切さとか風化させないという思いはここで一致したかと思えますし、今後、それをどのように具体的な形に残しておくかというのがこれからの検討課題だと思いますけれども、とりあえずお話をこういう形で伺ったということで、意見交換はこのくらいにして、この次の予定ということを考えていくことでよろしいでしょうか。

それでは、事務局のほうから、先ほどもちょっとお話がありましたけれども、この次の予定、パブリックコメントから策定に至る中での予定をご説明いただければと思います。

【天野広報秘書課長】 第2回までに、今、戦後の食糧難も含めてというお話をいただいたんですけども、そういった中で、考えるきっかけにする日というのをどういうふうにするかということもここで定めなければいけないのかなと思っております。その参考にできるようなものがどの程度用意できるかわからないんですけども、第2回までに事務局のほうでそれは用意したいなと思っております。そのような資料を参考にさせていただきつつ、平和の日をいつにするかということも第2回で検討していただければと思っております。

平和の日を決めた後に、平和の日にどんなことをやればいいのかということを検討いた

だきたいと思っているんですけども、そちらのほうはむしろ今のお話を聞いているとかなりヒントをいただいているのかなと思っておりまして、例えば永井委員のお話にあったような体験談を語っていただく日をつくるですとか、そういったのもいいのかなと思っておりますし、その辺、具体的なことを第2回、第3回で検討いただきたいと思っておりますが、次に、こちらのほうで資料自体、探す資料もあるんですけども、逆にこういった資料が欲しいというところで、先ほどの確認なんですけれども、西東京市さんですとか武蔵野市さん、その辺の例ですね。

【根岸座長】 そうですね。

【天野広報秘書課長】 じゃあ、その2点は用意させていただきます。

【根岸座長】 条例なども集めていただいたほうがいいと思いますね。

【天野広報秘書課長】 じゃあ、他府県も含めてということですね。他の自治体の例ということで。

【根岸座長】 はい。

【天野広報秘書課長】 あと、現時点で事務局が調べた範囲ですと、『東京大空襲の記録』というような本がありまして、東京大空襲の戦災誌という資料がありまして、ただ、こちらは先ほど来お話に出ているとおりに、公文書として残っているものを参考につくったものなので、どの程度のものが残っているかというのがあるんですけども、そこに2回ほど小金井に空襲があったという記載もありますので、その辺の資料も次回ご用意したいと思えます。それとあとは、戦時中の小金井の町報、今の市報に当たるものですね。その辺も参考になるものがあれば用意したいと思っております。

現時点で事務局のほうで考えているのはその程度なんですけれども、ほかに何かこういったものが調べられないかというご提案があれば、時間も限られていてどこまで対応できるかというのがあるんですけども、可能な限り対応したいと思えますが、いかがでしょうか。

【根岸座長】 いかがでしょうか。

【林副座長】 ちょっと、その前に事務当局としては、3回程度、せいぜい4回というお話がありました。あまり拙速主義でこれらのことを決めてしまうという形の結果になってしまうようにはならないほうが私はいいと思うんです。そんな大事なことをわずか3回ぐらいのあれで決めたのかとかいうことにとられないためにも、やはり、私は少なくとも4回は必要だと思います。

まず、この次の資料をいただいて、平和の日をどうするかということをもっと検討しようというんでしょう。その後、今度は、いろいろな施策についてどうしようかという検討がある。それでもう3回たっちゃいますね。

それをまとめるとなると、やはり4回は最低必要かなと。そのエンドラインというのが、8月15日の日か何か念頭にあって7月ぐらいいまでに決めたいと、こういうことなんですか。

【天野広報秘書課長】 そういったものではなく、最初に目標にしてたのが9月議会に上程というのを目標にしてたので、そこからの単純な逆算です。

【林副座長】 それに間に合うようにという考え方ですか。

【天野広報秘書課長】 ええ。ですから、ここの3回でちょっと協議、検討の時間が足りないということであれば、パブリックコメントを出す前の案自体を4回使ってご協議いただいて、パブリックコメントに出す時点で、ここでの検討というのはある程度されているのかなと思いますので、そのパブリックコメントの結果を受けた検討については、事務局です

るといふことであれば、最初に4回使ってしまうというのもありかなとは思っております。その辺は、その進捗に合わせてどちらかできいこうかなと考えています。

【林副座長】 4人の委員さんがいるわけですがけれども、それぞれ、いろいろな事情を抱えていて、日にちを統一して決めるというのなかなか難しいかなということも考えますと、簡単に、拙速に事務的に考えたような進捗でいくのかどうか、ちょっとそれが気になったものですから申し上げました。

【根岸座長】 ありがとうございます。今のご意見について、いかがでしょうか。

【鴨下委員】 いずれにせよ、事務局でこの次、資料といわれたものを出していただく。それをもとにして、小金井平和の日というのをどういうところへ置くべきかは、これを主に4人で議論すべき問題になってくると思うんです。戦争の悲惨さがなくなった日のことよりも、戦争中の悲惨さを思い出せる日を平和の日とするのか、その辺、非常に多岐にわたる考え方がね、そんなふうに思います。

【根岸座長】 ほかにいかがでしょうか。それから、私、資料として、皆木先生の日記は資料にならないだろうかと。小金井にずっと、浴恩館におられて、それで、多分空襲の記録なんか書いてないだろうかというようなことを……。

【鴨下委員】 お聞きになっていますか。皆木先生の私的な日記を預かっている人がいるんです。一生懸命、今、ワープロで入れているんですが、できたら、ぜひ史談会の創始者ですから、史談会の雑誌に載せさせてくれという話はしてあるんですが。個人的なことも書いてあると言っていましたね。

【根岸座長】 そうなんです。そこは、多分、近代の日記というのは、例えば、吉田茂日記とか、有名な日記そうなんですけれども、個人的なことを全部除いて活字にしているんです。ですから、そういう公的なところだけを差し支えないところだけを、何か見せて、特に、空襲とか戦時中の生活の一端がわかるような差し支えない記事を見せていただくということができないだろうかというように、私もミナキ先生に若いころお世話になったことがありますので。

【鴨下委員】 やってらっしゃいますよ。まだ、でき上がっているかどうか……。

【根岸座長】 ああ、はい。そういうのが市内で参考にならないだろうかということ。永井委員は、そのころの日記とかメモとかって、何日にどうなったということは、何かメモございますか。

【永井委員】 それが、小学校1年に入ったときに、先生から、「日記は、毎日書くから日記というんですよ、お書きなさい」と言われまして、1年から書いたんです。それで、書いてはだんだんたまってしまって物置に入れておきましたら、戦時中に高放射砲の破片が物置に落ちて、穴があったところ気づかなくて、それで日記、全部、何ていうんだ、雨浸しみたいになってしまったんです。それで戦争中の当時の日記がないんです。それ以後のは、まだ、古ぼけてしまいましたけれどもありますので、ピックアップして、またいろいろと記録をよみがえらせたというところはございます。ただ、戦時中、書いたそのものはないんです。

【根岸座長】 そうなんですか。何か、市内にそういう記事がないだろうかというものが、もしあれば、ぜひ参考にさせていただければと思うんですが。ほかに、何か必要な資料というのはございますか。もしなければ、事務局で用意していただいて、それを見て場合によっては改めて、またお願いするということもあるかと思いますが、よろしく……。

【天野広報秘書課長】 1点、事務局から、今用意できる範囲でちょっと確認したいと思うんですけれども、せっかく、その当時、小金井市にいらっしゃった方がいらっしゃるので、

逆に、空襲とかに限らず、戦後も含めてなんですけれども、何月何日こういうことがあって、それを、その日を思い浮かべると平和について思い浮かべるとか、そういった何かきっかけになるような日みたいなものがあれば、逆にお聞きしたいなと思うんですけれども、何か、そういうものってございますでしょうか。

【林副座長】 小金井市史の歴史編に戦争のことについて、何か記述があったような気がするんですけども。

【天野広報秘書課長】 資料編の13編か何かに、たしかそのころのがあるというふうには聞いたことがありますので、そちらも、ちょっと改めて読み返してはみたいと思います。

【鴨下委員】 それから、市報のほうで8月15日前後に、昔の、その当時のことを思い出す市民一般からの文を募集して、相当スペースを割いて載せてます。あれを見ますと、なかなか興味深いことを、皆さん真実のこと書いてあるんです。あれなんかは、事務局あたりで所蔵しておく、何かの参考になるかもわかりませんね。非常に、真摯なことを真剣な態度で皆さん投稿してます。

【根岸座長】 市のほうで、小金井の詳しい年表をつくられていませんでしたか。

【林副座長】 ありましたよね。市史に載ってましたよ。

【根岸座長】 それだけではなく、元職員の方がもっと詳しい年表をつくっておられたという話を伺ったことがあるんですが、そのあたりを確かめていただいて、多分、増補されながらまだ未定稿になっているんじゃないかと思うんですが、今のところのそのあたりの記事を参考にできればと思うんですが。

【天野広報秘書課長】 今、ちょうど、現代編についてはこれからという部分があるかと思うので、まだ作成途中のものもあるかもしれないですけども、そちらは、担当の部署に確認をしてみます。

【根岸座長】 お願いいたします。ほかはよろしいでしょうか。

それでは、第2回日程についてですが、今のところ、事務局では、5月19日でしたか。

【天野広報秘書課長】 はい。5月19日の月曜日。

【根岸座長】 月曜日。何か、予定が入っておられますかね。

【林副座長】 小悠連の常任理事会にぶつかっている……。

どちらも出席したいと思いますので。

【根岸座長】 はい。あと、前にお話しいただいたところでは23日とってましたか。

【天野広報秘書課長】 5月の23は、ちょっとできないですね。議会の関係で……。

【根岸座長】 あ、議会の関係で……。

【天野広報秘書課長】 事務局であと仮押さえてたのは、5月16日を仮押さえております。

【根岸座長】 16日ですね。

【鴨下委員】 16日は……。

【林副座長】 午前中ですか。

【天野広報秘書課長】 ここは、午前でも午後でも大丈夫です。

【林副座長】 午前中は、小悠連の定期総会がある。

【根岸座長】 5月19日の3時とかそれでも……。

【林副座長】 僕は大丈夫だと思います。19日は。

【根岸座長】 19日。

【林副座長】 ええ。

【根岸座長】 でも、市役所のほうで19日の午後だと。

【天野広報秘書課長】 午後ですね。

【林副座長】 先生は大丈夫でしょうか。

【根岸座長】 午後でしたら、私は、夕方じゃなければ大丈夫です。

【天野広報秘書課長】 あとほか、5月12日の週、19日の週ぐらいで、皆さんご都合のつく日と違って、ほかありませんか。

【根岸座長】 12日の午後でしたら、市史編さん委員会の後ですので大丈夫なんです。

【林副座長】 私は12日は大丈夫。

【天野広報秘書課長】 5時以降の、夕方とかもご都合つく日はないですか。

【根岸座長】 5時以降は、ええ、大体詰まってる。例えば何日になりますか。5時以降ですと。

【天野広報秘書課長】 いつでも大丈夫なんですけれども。

【根岸座長】 月曜日の夕方は、ちょっとほかの大学で講義があつて。

【天野広報秘書課長】 先ほど、19日の午後というお話をいただいたんですけれども、何時ごろなら皆様、いらっしゃいますか。

【根岸座長】 19日の午後はいかがですか。

【林副座長】 僕は大丈夫です。

【鴨下委員】 大丈夫ですね。

【根岸座長】 それでしたら、1時から5時ぐらいまでの間でしたら、私、大丈夫ですが。

【天野広報秘書課長】 そしたら19日の1時半とか、そういった時間で。

【根岸座長】 はい。結構です。じゃあ。19日の1時半でよろしいでしょうか。

【永井委員】 はい。

【根岸座長】 では、19日の1時半から第2回目ということにしたいと……。

【鴨下委員】 部屋はまだ決まりませんか。部屋は……。

【根岸座長】 部屋はいかがですか。

【天野広報秘書課長】 申しわけありません、15時ぐらいからでも大丈夫ですか。

【根岸座長】 15時でよろしいですか。

【鴨下委員】 19日の。

【根岸座長】 19日の15時、3時からということで。

【鴨下委員】 はい、わかりました。

【天野広報秘書課長】 場所について、今、事務局で確認してますけれども、すぐに見つからないようであれば、追ってまたご連絡という形に。

場所のほうは本町暫定庁舎というところの第2会議室。場所のほうは、皆さんご存じですか、本町暫定庁舎というのは。この連雀通り挟んで、北側の駐車場のすぐ北側にプレハブみたいな、2階建ての建物があるんですけれども、そちらになります。

【根岸座長】 それでは、よろしいでしょうか。では、第1回の検討委員会、非常に貴重なお話を伺いましたので、今後、これをもとに検討していきたいと思います。

それでは、どうもありがとうございました。